

「出題の意図」

<p>選抜区分</p>	<p>2022 年度 （選抜区分：一般選抜・前期） 経済学部 （科目名：英語）</p>
<p>出題の意図 (評価のポイント)</p>	<p>1. 出題の背景・求める能力</p> <p>I</p> <p>バスやタクシーの無人自動運転の導入について論じた文章を出題資料とした。英語の基礎知識が身についているかどうか、そして、全体の論旨と話の流れをまず読解できているかが、正解・不正解の分かれ目となる。</p> <p>設問の種類は、数えられる名詞と数えられない名詞に対する表現のルールについての問い、英文和訳（とりわけ仮主語を伴う文の英訳）、括弧内に入る適切な語句ないし複数の語句の順番についての問い、などである。それらの基本的な知識を習得できているかどうかを試した。</p> <p>II</p> <p>人間が猿と異なり、二足歩行して巨大な脳を持つことになったことについて、いくつかの重要な視点から論じた英文から出題した。問1、問2、問3は、出題文の内容を正しく理解できているかどうかを試す設問である。文章全体の論旨と流れについての読解力が求められる。問4も設問部分の文意を理解したうえで、最適な語を選ぶ問いである。問5では、英文の内容を正しく理解し、日本語でそれを的確に説明できることが正解につながる。問6は、火を使うことを人類が覚えた前と後で、どのような違いが生じたかについて、出題文の理解度をみる設問である。問7は、出題文の後半の内容を理解したうえで、五点に整理できるかどうかを試した設問である。</p> <p>IIIとIV</p> <p>和文英訳の基礎的な能力を問う出題である。SV、SVC、SVO、SVOO、SVOCの英語5文型がまず正しく設定されているかどうか、全体として日本語の内容に則した英文になっているか、そして、単語が正しく使われているかが、評価の主なポイントとなる。</p> <p>2. 解説(解法)</p> <p>I</p> <p>問1: 政府が安全性を最優先しつつ、ゴルフカートのように小さい車両を使い、時速10キロ程度で、人口が少なく制限された場所で導入する、と説明している文意に則して考えればよい。</p> <p>問2: バスの利用者が減少している要因を後半で書いているので、[]内には、結果と要因をつなぐ語句が入ることになる。</p> <p>問3: 二つ目の it が to report 以下を受けた主語であることに気づくことがポ</p>

イント。

問 4：選択肢をみて、**no matter how** 構文が含まれていることに気づくとともに、設問箇所が論旨の変化・展開をつなぐ箇所であることを理解できれば、正解につながる。

問 5：**concern** の内容が、コンピューターシステムの不具合だけではなく、事故の責任の所在にも及んでいることに気づくことがポイント。

問 6：**such points** と複数形になっているので、直前のコストの問題だけ答えるのでは、不十分である。つまり、この出題文の全体をとおして、政府・自治体が重視し考慮している内容を読み取ることで正解することができる。とりわけ、2 頁の 3 行目で **top priority** と表現されている安全性の問題が重要である。

II

問 1：設問箇所とその前後では、人間とチンパンジーの類似点が説明されているので、**similarities** が正解となる。

問 2：設問箇所の後に説明されている内容を読み取って簡潔に説明することが正解につながる。**For a start** 以下と **Then there's energy issue** 以下が、その内容説明であることを読解することが重要。

問 3：設問箇所の直後に、**That's a problem because** とあるので、その後が内容説明となっていることに気づき、それを読み取る設問である。

問 4：火を使わずに調理（料理）されていないものを食べることについて述べられている箇所なので、**Raw** が正解となる。

問 5：**miss** の単語の意味を正しく知っていることが、まず必要である。そのうえで、**not・……everything as much** を「それほど（以前ほど）」というニュアンスで読み取ることができれば、解答できる。

問 6：直前の「野生生物を警戒して、夜は樹の上に登っていた」ことからの変化なので、樹に登らなくてよくなった、つまり、地上 (**ground**) が正解となる。

III と IV

解答文の全体の構造が、英文として適切であるかどうか、まずは大切なポイントである。そのうえで、適切な単語や言い回しが含まれていることが、さらなる加点につながる。

3. 受験へのアドバイス

全体的に、英単語の意味を暗記するときは、一つの意味だけではなく複数の意味を憶えるべきである。

I の問 1 では、数えられる名詞（可算名詞）と数えられない名詞（不可算名詞）で、**(a) little**、**(a) few**、**many (much)**、の使い分けがある。そうした基本的な知識を習得していることが、まず必要である。

I の問 2 では、正解率は 7 割程度であった。ここも、基本的な連語の知識を持っていることが、大切である。

和文英訳の設問では、例年、関係代名詞、仮主語、が頻繁に出題されている。そうした設問に慣れるように同種の設問を多数解いておくことが、正解につながる。

I の問 3 では、vehicle を bicycle と間違えている答案、state を start と間違えている答案、personnel や compulsory などの単語の意味を理解していない答案が目立った。単語を憶える際は、似たつづりの単語とその都度見比べて、区別を意識しつつ学習することが大切である。I の問 5 では、concern の内容が文の最後まで掛かっていることに気づくことが大切である。こうした修飾範囲の読解を問う和文英訳もしばしば出題されるので、慣れておく必要がある。また、lie を（責任が）「ある」ではなく「嘘」と訳している答案が多かった。一つの単語が複数の意味を持つことに留意して、日ごろから学習することが大切である。

II の問 2 の正解としては、設問部分の直後だけではなく、段落が変わった Then 以下も含まれている。そのことに気づいていない答案が目立った。For a start を引き継いで、Then……と話がつながっていることに気づくことが必要。英文に限らず、接続詞や文の冒頭の語句は、話の流れの論理構造を示すことが多いので、日ごろから意識して文章を読むことをお勧めしたい。

II の問 4 の正解率はおおよそ 7 割、問 6 の正解率はおおよそ 6 割であった。出題文を読解できているかどうか、正解につながる。問 7 では文章全体を理解するとともに、日本語で簡潔に要約して書く能力が求められる。「共通できる」など日本語として不自然な表現が見うけられたので、日ごろからテキスト・新聞・書物などで、正しい日本語表現に触れることが効果的であろう。

III と IV では、英訳するにあたって適切な英単語を使えることが重要である。日ごろから「この日本語は英語では何と言うのだろう？」と疑問を持つ習慣をつけることが、単語力のアップにつながる。また、balance のつづりを valance や barance と書いている答案もあった。単語を憶えるときには、見るだけではなく口と耳と手を使うこと、すなわち、発音記号に則して発音し、その声を耳で聞き、手で数回書いて学習することが、効果的であろう。

和文英訳の解答の中には、通常書き言葉としては使わないスラングや不適切な英単語、そして、崩れた文型の英文が散見された。インターネット、SNS、コミックなど、様々な媒体から英単語を知りうることは、その原因かもしれない。まずは高校のテキストや参考書などで、フォーマルな正しい英語（単語、表現、文型など）を修得して、知識の土台とすることが大切である。